いつも，インシデント報告ありがとうございます

2025.8.27

京大病院医療安全情報149

【酸素チューブ接続間違い】

【事例①】在宅酸素療法中で、夜間のみ持続陽圧呼吸療法を行っている患者。起床時から酸素を経鼻カニューレで投与していたが、経皮的動脈血酸素飽和度が90%以下となった。
装着していた経鼻カニューレをたどっていくと、酸素流量計に接続されているチューブは、持続陽圧呼吸療法の機器本体に接続されており、酸素供給ができていなかった。

【事例②】入眠時は持続陽圧呼吸療法、覚醒時は在宅用ネーザルハイフロー装着中の患者。昼寝のため、在宅用ネーザルハイフローから持続陽圧呼吸療法の機器本体へ酸素チューブを繋ぎ変えようとしたところ、酸素チューブはすでに持続陽圧呼吸療法の機器本体につながっており、酸素が投与されていなかったことがわかった。

※このイラストはAIによって生成されたオリジナル画像です

インシデント報告に基づいた対策です

京大病院医療安全情報149

【酸素投与時の注意事項】

酸素が出ているか確認

酸素流量を調節したら、チューブの吹き出し口を手で触れて確認しましょう。

酸素チューブを先までたどって確認

酸素チューブ装着部位からフローメーターまで指でたどり、使用している酸素チューブが正しく接続されていることを確認しましょう。

使用していない酸素チューブは片づける

フローメーターに酸素チューブをまとめてかけておくと、酸素チューブとフローメーターが接続されていると思い込んでしまうことがあります。
使用していない酸素チューブは袋に入れておきましょう。

酸素チューブの不要な延長はしない

延長している場合、延長用コネクターから酸素チューブを外して交換するのではなく、根元から交換しましょう。
また、酸素チューブが必要以上に長いと、 床につき転倒のリスクにもなります。

医療安全管理室作成